

書

評

札幌地理サークル編：ウォッチング札幌

北海タイムス社発行，1987年
127頁，1,800円

札幌を題材にして、これほど多角的に取上げ、分布図に表現して視覚的に捉えた本は他にはないのではなかろうか。これが私の第一印象である。北海道の中心・札幌に始まり、その歴史・自然・産業・交通・建物・日常生活に及んでおり、それぞれがまた幾つかの角度から取上げられている。実に多彩で、この一冊があれば札幌の姿が居ながらにして捉えられる。このような仕事は高校の先生方による札幌地理サークルのような組織があって、初めて可能なことであろう。

ある表題のページを繰ると、上部に導入のことは書きがあり、右頁に関連した多色刷りの地図が示されている。左頁にはその統轄的な説明があり、その後数項目に分けて解説されている。開いた左右の頁で一つ宛完結しているの

である。この型式が終始一貫しているのには感心した。と同時に編集の先生方の苦心が偲ばれる。

また地図の表現にも多くの苦心の跡が察せられた。例えば「市民の足地下鉄」をとっても、バスと関連させながら、その輸送力の多寡を表現させるなど、幾つもの要素を盛り込んで具体的に捉え易くしてある。また明るい系統の色の組合せは見ても楽しいものである。これら分布図は人それぞれの関心に従って、解説の文以外にも多くの問題を見つけることに役立つのではなかろうか。

ただ型式が統一されたためか、固い表現や難しい述語などが用いられ、やや一般の人にはとっつき難い個所も見られた。このような場合、型式を多少破っても読み易くすることに主眼をおくなどの工夫も考えられるのではなかろうか。全体的には読み易く、興味と唆暖に富む内容の本で、札幌に関心の深い人に奨めたい。

(柏村 一郎，札幌大学女子短期大学部)

会

報

1986 年度

1. 春季大会記事

1986年度春季大会は、6月1日(日)に札幌大学・会議室において札幌地理サークルとの共催により、「地理教育」と題してシンポジウム形式で次の通り開催された(参加者28名)。

・シンポジウム

テーマ：「地理教育」

オーガナイザー：

柏村 一郎(札幌大学女子短期大学部)

高平 順夫(藤女子高校)

コメンテーター：

奈良部 理(札幌学院大学)

岡本 次郎(北海道教育大学)

木戸口 道彰(北海道教育庁)

発表者および題目：

紺野 忠一郎(札幌市教育研究協議会)：札幌市の小学校における現地学習の実態調査(リポート参加)

飯塚 崇教(札幌市陵北中学校，発表当時)：札幌市内

の中学校における現地学習(地理巡検)の動向
山内 正明(藤女子高校)：中学・高校における巡検学習の位置づけについて

氷見山 幸夫(北海道教育大学：地理実習と地図学習
・総会

1985年度決算報告、1986年度予算案および事業計画が提出、承認された。

(収入)

繰越金	315円
会費収入	386,400
雑収入	121,343

(雑収入内訳：広告料 100,000 会誌売却
9,500 寄付金 689 預金利子 8,354)

計 508,058

(支出)

会誌(No.60)	380,000
事務費	13,519
通信費	46,970

謝礼	10,000
大会補助	10,140
会議費	760
予備費	0
計	461,389
次年度繰越金：	46,669円
1986年度予算案	
(収入)	
繰越金	46,669円
会費収入	320,000
雑収入	142,500
計	509,169
(支出)	
会誌 (No.61) 印刷費	390,000
事務費	15,000
通信費	45,000
謝礼	10,000
大会補助	15,000
会議費	5,000
予備費	29,169
計	509,169

2. 秋季大会記事

1986年度秋季大会は、9月23日(火)に札幌市北郊および石狩町において巡検を中心として、次のテーマとコースにより開催された(参加者36名)。

テーマ：「札幌北郊と石狩町の変貌—紅葉山砂丘と大型住宅団地を訪ねて—」

コース：大通(午前9時集合)→発寒工業団地→新川→花川団地(花川南地区)→紅葉山砂丘(形成と人工改変)→花畔団地(花川北地区)→石狩湾新港(工業団地)→石狩町(本町, 昼食)→八幡地区(旧対向集落)→志美(石狩工業団地)→生振(砂丘の土地利用)→茨戸→篠路拓北(あいの里ニュータウン, 教育大学移転地)→篠路清掃工場(ゴミ貯留槽, 余熱利用野菜栽培)→丘珠(旧石狩街道, たまねぎ主産地)→札幌駅前(午後4時30分解散)

案内者：木戸口 道彰・高平 順夫・山内 正明・進藤 賢一・山下 克彦・大内 定

札幌市北郊および石狩町は近年、鉄工団地、木工団地の建設、石狩湾新港建設にともなう大規模工業団地、さらに大型住宅団地の開発など様々な変貌を見せている。石狩町の住宅団地は住宅供給公社の建設になる北地区(花川団地)と民間デベロッパーの手になる南地区(新札幌団地)とで、住宅環境において好対照であり、また最近では紅葉山砂丘における宅地開発、病院・学校の建設は砂丘の自然の人工改変と相俟って、問題ともなっている。

札幌市北郊の「あいの里ニュータウン」は、大学を誘致しての学園都市、真空ゴミ集塵装置、中央排水型の道路などを試みた新しい住宅団地として、住宅都市整備公団、北海道住宅供給公社により開発がなされ、すでに大学の建設、第2次の宅地分譲があり南部では数十戸の住宅が張りついているが、冬季の積雪、夏季を除いた大部分の期間の強風など住宅団地としては厳しい自然環境がある。

また、第3期北海道総合開発において着手された石狩湾新港と背後の大規模工業団地は、団地造成の完成をみまものの低経済成長、産業構造の変化により、港の完成、工場誘致とも大幅な遅れを余儀なくされているが、外資系のハイテク産業(スエーデン「ノボ社」)、食品加工センターなどの誘致にみられる新しい変化のきざしもみられる。

巡検では、こうした札幌市北郊と石狩町の最近の地域変化の様子を参加費によるマイクロバスで視察し討論を行った。また、石狩湾新港、石狩湾工業団地の見学では新港開発公社の方、余熱利用栽培(篠路清掃工場)では札幌市農業試験場および現地の農家の方にそれぞれご説明いただいた。ご案内、ご説明いただいた方々にお礼申し上げる。

3. 他学会、研究会の動向

国際地理学連合 (IGU)

土地利用変化の実態とプロセスに関する国際シンポジウム(International Symposium on Land Use Change and Its Processes)の開催について：

国際地理学連合のWorking Group on the Dynamics of Land Use Systems(代表Dr. R. Hill)の要請を受けて、標記の国際シンポジウムが開催されます。巡検を含む会議登録は4月30日ですすでに締め切っていますが、会議のみの聴取参加はできます。

1. 期 日 1987年8月8日(土)～12日(水)
2. 場 所 北海道教育大学旭川分校(8～10日)
札幌市教育文化会館(11～12日)
3. テーマ 土地利用変化とその原因、プロセス、相互関連、調査・分析手法、土地利用計画・政策の検討、都市周辺部と人工減少地域における土地利用変化

連絡責任者：〒070 旭川市北門町9 北海道教育大学旭川分校地理学教室 氷見山幸夫 電話 0166-51-6151

国際シンポジウム開催実行委員会

代表：岡本次郎

日本地理学会土地利用研究グループ

主査：實 清隆

4. その他

・会員消息(1986年4月2日-1987年4月1日、住所などは会員名簿に記載)

入会：堀江実(所属 奈良大学・学生)、黒沢恵美子(無

所属), 貞方昇 (所属 北海道教育大学函館分校), 小野有五 (所属 北海道大学大学院環境科学研究科), 根田克彦 (所属 北海道教育大学釧路分校)

退会: 中山弘章, 中西隆

会員異動: 谷内達 (所属 三重大学人文学部→東京大学教養学部), 奥井正俊 (所属 大阪教育大学池田分校→宇野宮大学教育学部), 飯田精一 (所属 兵庫教育大学・院→北海道教育大学付属札幌中学校), 飯塚崇教 (所属 札幌市陵北中学校→札幌市新川西中学校), 沢田芳一 (所属 佐呂間高校→石狩高校), 小山武夫 (所属 旭川南高校→白老東高校), 谷川尚哉 (所属 明治大学・院→神田女子学園中学・高校), 佐藤忠嗣 (所属 上砂川町若生小学校→砂川市石山中学校), 橋本敏昭 (所属 札幌市定山溪中学校→札幌市中の島中学校), 山本光明 (所属 苫小牧市大成小学校→苫小牧市明德小学校), 奥谷忠浩 (所属 北海道学園大学・研究生→苫小牧市沼ノ端小学校)

・学会よりの主な会誌配布先 (交換も含む):

日本地理学会, 人文地理学会, 東北地理学会, 福島地理学会, 北海道立文書館, 道立図書館北方資料室, 北大図書館北方資料室, 北海道教育大学本部図書館, 札幌大図書館, 北海道開拓記念館資料室, 古今書院編集部, シカゴ大学極東文化研究所資料室, 国立国会図書館

◎ 学会事務局からのお願い

1987年ないしこれ以前の年度について会費未納の会員には, 納入につき特段のご協力をお願い申し上げます。納入額は, 1987年度春季大会会告通知に同封してお知らせしております。

なお, 行き違いですすでにお支払いの際はご容赦下さい。